

両沼地方稲作情報 第6号

令和7年8月8日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2113）
 金山普及所（電話0241-54-2801）



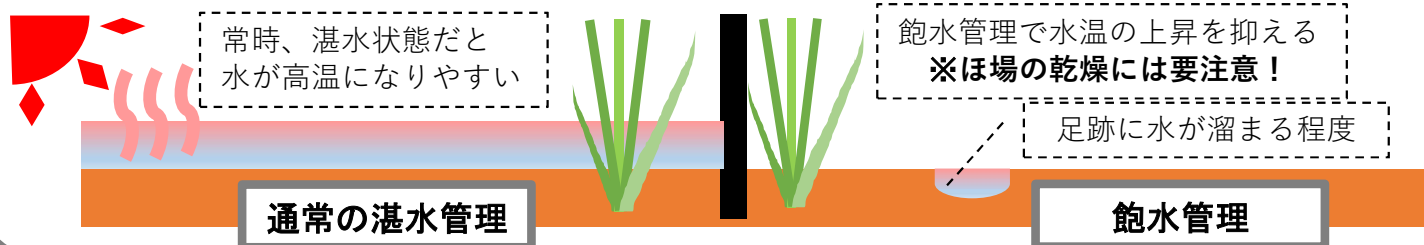
J A 会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
 会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区

会津坂下農業普及所のHPで、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
 その他、普及だより等の情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

用水路下流域等で渇水が発生しています。掛け流しは絶対に行わない。
 干ばつ気象下、節水による用水の有効利用にご協力をお願いします。

「飽水管理（節水）」による高温対策が効果的です

登熟前半（出穂後20日間程度）に高温（日平均気温26℃～27℃以上）が続くと、
 白未熟粒の発生による玄米の品質低下が懸念されます。飽水管理（ひたひた水
 状態）で地温の上昇を抑制して、根の活力を維持しましょう。



1 気象情報

- ・経過 6～7月は、高温多照で経過しました。特に6月中旬以降、気温30℃を超える真夏日が多く降雨も極めて少なくなっています(図1)。
- ・東北地方1か月予報(8/9～9/8) 向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は平年並または少ない確率ともに40%、日照時間は多い確率50%です。

2 生育状況

- ・幼穂形成始期は3～5日平年より早く、出穂期は平年並～3日早まっています。7月末の生育は草丈、茎数、葉数が概ね平年並みとなっていますが、葉色の低下がみられます(表1)。
- ・水稻直播は、生育初期に低温や土壌還元、表層剥離・藻類が影響して出芽や生育が抑えられましたが、7月半ばの生育は、茎数が平年の9割程度となり、回復がみられます(表2)。

表2 作柄判定ほの生育(湛水直播、会津美里町内)

年次	生育ステージ		7月15日調査			
	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD値)
本年	8/10	-	68.6	493	13.0	32.7
平年	8/11	9/19	73.5	563	11.1	32.7
差比	-	-	93%	88%	1.9	0.0

注. コシヒカリ、点播、4月29日播種 ()は見込み

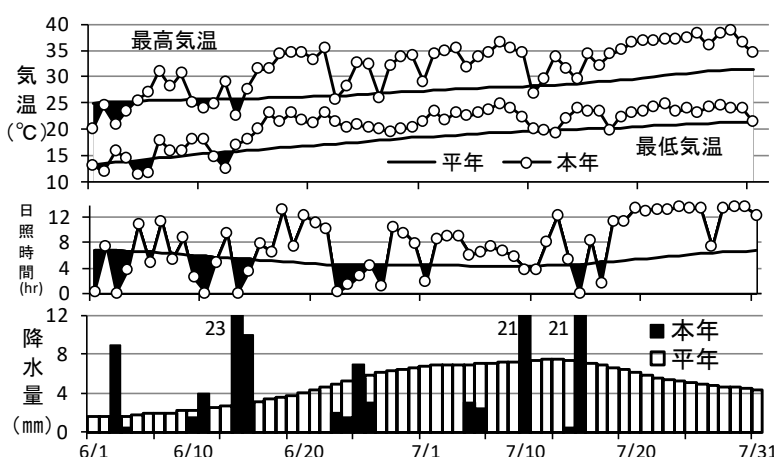


図1 気象の経過(アメダス若松)

表1 作柄解析試験の生育(会津地域研究所)

品 種	年 次	生育ステージ			7月29日調査			
		幼穂期* (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD値)
コシ	本年	7/ 9	8/ 5	-	103.2	589	13.4	30.2
ヒカ	平年	7/14	8/ 4	9/15	99.0	573	13.3	33.5
リ	差比	-5	1	-	104%	103%	0.1	-3.3
ひと	本年	7/ 4	7/27	-	94.3	576	12.7	30.2
めぼ	平年	7/ 8	7/30	9/11	94.2	595	13.0	36.3
れ	差比	-4	-3	-	100%	97%	-0.3	-6.1
天の	本年	7/ 7	8/ 2	-	88.8	595	12.4	31.0
つぶ	平年	7/10	8/ 1	9/13	85.9	576	12.2	37.1
差比	-3	1	-	-	103%	103%	0.2	-6.1

注. 5月20日植え・20.8株/㎡(30cm×18cm)、*幼穂形成始期

3 高温対策

高温が続く予報です。地域で用水を有効利用して渇水を防ぐとともに、高温登熟の防止、カメムシ防除、早期落水の防止、適期刈取を徹底して、収量品質の低下を防ぎましょう。

(1) 水管理

- ・出穂時期はイネが最も水を必要とする時期です。水を切らさない（土壌を白く乾かさない）。特に登熟前半（出穂後20日間程度）は、高温（日平均気温26℃～27℃以上）による乳白粒、背白粒・腹白等の白未熟粒の発生が懸念されます。「飽水管理（ひたひた水状態）」により地温上昇を防ぎ、根の活性を維持しましょう。
- ・落水は出穂30日後に行い(早期に落水しない)、その後は収穫に備え地耐力の向上を図りましょう。

(2) 病害虫防除

- ・高温により県内全域でカメムシの発生量が多くなっています。カメムシは斑点米による品質低下とともに、不稔や登熟を阻害しますので、防除を徹底しましょう。
- ・散布剤による防除は、乳熟期（出穂7～10日後）の散布を基本とし、その後、多発が予想される場合は7日おきに追加散布しましょう。



↑ カメムシ
注意情報

(3) 適期刈取

- ・今後も高温が続くと、刈取適期が早まることが予想されます。早めに作業計画を立て、収穫の準備を進めましょう。
- ・収穫日は、おおむね出穂40～45日後頃です。

- 適期刈取 ①出穂期後の日平均積算気温が950℃～1,050℃に達した日が目安となります（表3）。
- ②実際には、籾の黄化率を確認して、黄化率が80～90%になった時期（図2）に刈り取りしましょう。
- ・なお、「天のつぶ」は、刈取適期になっても、上位葉や穂軸に”青み”が残る特徴があります。
 - ・籾水分は玄米水分計で30%以下になると計測できます。立毛中における籾水分25%が刈り取り開始の目安になります。籾水分20%以下になると、胴割粒が発生しやすくなるため、刈り遅れないよう注意が必要です。



図2 黄化率90%の稲穂のイメージ

表3 刈取適期の目安(日平均積算気温による判定、8月7日現在))

地域	品種	出穂期＊	刈取適期の目安日			
			950℃	1,000℃	1,050℃	1,100℃
平坦部	ひとめぼれ	7月27日	9月 3日	9月 5日	9月 7日	9月 9日
	コシヒカリ	8月 5日	9月14日	9月16日	9月18日	9月21日
	直播 コシヒカリ	(8月10日)	9月20日	9月22日	9月25日	9月28日
山間部	ひとめぼれ	8月 3日	9月14日	9月16日	9月19日	9月22日

注. 日平均気温は、平坦部はアメダス若松、山間部はアメダス金山を用いた。

(※8月7日以前は本年値、8月8日以降は平年値の日平均気温)

＊出穂期; 作柄解析試験(表1)、作柄判定ほ(表2)を用いた。()は見込み

4 秋の稲わらすき込み

稲わらのすき込みは、秋に行うことで春のすき込みよりも腐熟が進み土壌還元による生育障害が軽減されます。収穫後できるだけ早く浅耕（5 cm程度）しましょう。石灰窒素等の施用も腐熟促進に効果的です。稲わらは貴重な有機資源です。燃やさずに有効に活用しましょう。

○モニタリング検査の結果が出るまでは、令和7年産米の出荷・販売・無償譲渡の自粛にご協力をお願いします。自粛解除の状況は、福島県水田畑作課のホームページで公表されます。

○無人ヘリコプター等での農薬散布には実施計画書等の提出が必要です（詳しくは普及所まで）。